

知財コンサルティングセンター (PCIP) セミナー報告

日時： 2023 年 1 月 25 日 18:30 ~ 20:00

タイトル： 不織布フィルター事件等を通じて考える知財人材に必要な資質能力と今後の展望

講師： 弁理士法人安倍・下田国際特許事務所 弁理士、技術士(化学)、PCIP 幹事
下田 正寛 氏

場所： オンラインセミナー (Zoom)

聴講者： 16 名

概要： 知財紛争においては、侵害訴訟や無効審判、訂正審判など複数の事件を並行して進めなければならないことも多く、権利者、弁護士、弁理士、事務所スタッフの意見が対立することもある。この場合、ある事件では請求が認められても、他の事件では障害となることもあり得る。本セミナーでは、講師が実際に経験した不織布フィルター事件を題材として、知財紛争における弁理士のコミュニケーション・リーダーシップの重要性について概説していただいた。併せて、将来の知財需要に応えるため、いかなる人材の育成が必要であるか、地方で中小企業相手に活動する弁理士・技術士の視点から考察していただいた。

主な骨子は以下の通り。

1. コンピテンシーとは

技術士に求められるコンピテンシーは、専門的学識、問題解決、マネジメント、リーダーシップ、評価、コミュニケーション、技術者倫理、継続研さんの8項目で定義されている。弁理士に求められるコンピテンシーもほぼ同じ。技術者倫理が弁理士倫理となる。コンピテンシー評価とは、職務ごとに定義された行動特性に基づいて行う人事評価であり、最近の人事評価制度で注目されている。

2. 不織布フィルター事件の概要

発明の概要、対象となった特許請求の範囲、事件の時系列推移、特許無効審判事件（進歩性の判断）、訂正審判、特許権侵害訴訟の概要と争点について、原告、弁理士、事務所スタッフの考え、意見も交えてご紹介いただいた。

3. 知財訴訟案件に求められるコンピテンシー

知財訴訟案件の求められるコンピテンシーについて、マネジメント能力、リーダーシップ能力およびコミュニケーション能力の観点を中心に考察していただいた。

4. 質疑

- ・事務所運営について
- ・権利行使を想定した（訴訟に耐えうる）明細書の書き方
- ・実際の訴訟の進め方について、これまでの訴訟を振り返って
- ・中小企業支援のあり方
- ・コンピテンシーの観点からの能力開発について（技術士、弁理士）

以上